

M^{群★星}uribushi

隔月発行【むりぶし】

「特集」九州・沖縄サミットに向けて
取り組んだ事業等



水を大切に！

沖縄湯水対策連絡協議会



石垣市簡易水道の吉原浄水場全景

石垣市簡易水道は、平成4年度から同市北部に散在する13の小規模簡易水道を1つの簡易水道に統合する整備事業を行っている。事業の竣工により、断水のない良質の水を安定的に供給することが可能となり、地域の発展に大きく寄与するものと期待されている。



Muribushi 群★星 隔月発行【むりぶし】/7月号 Contents 目次

01 就任ご挨拶 沖縄開発庁長官 中川秀直

02 中川沖縄開発庁長官、自保総括政務次官ラフール

03 命短し、恋せよ乙女 映画監督 中江裕司

04 牧前次官を偲ぶ 沖縄県副知事 石川秀雄

05 Special Edition
九州・沖縄サミットに向けて
取り組んだ事業等

仕事の窓

その1/財務部

12 県内企業の景況感

その2/運輸部

13 不正改造車防止

その3/農林水産部

14 順調に伸びる沖縄の肉用牛

その4/通商産業部

16 地球環境サミットin沖縄

トピックス(局の動き)

18 総務部

第六回沖縄振興開発審議会総合部会専門委員会の開催

財務部

県内初の監査法人認可される

19 農林水産部

「食料・農業・農村基本計画」に関する意見交換会の開催

通商産業部

二十一世紀経済政策の課題と展望

運輸部

「任意IS-MOTD認証取得制度説明会」を開催

20 開発建設部

日本港湾協会技術賞、企画賞を受賞

羽地ダム湖水橋竣工

21 開発建設部長に橋立洋一氏が就任



表紙解説
サミットに向けて整備されたプセナ岬
交差点近くの一般国道58号



この度、第二次森内閣の発足に伴い、内閣官房長官・沖縄開発庁長官を拝命いたしました。沖縄をめぐる諸課題は、本内閣においても引き続き重要課題であり、沖縄担当大臣の職責と併せ、沖縄対策を総合的、一体的に推進する任を担うこととなりました。サミット首脳会合が開催されるなど、沖縄県にとって極めて重要なこの時期に、沖縄開発庁長官を拝命いたしましたことは、私にとりて大変な喜びであると同時に、その責任の重さを痛感している次第であります。

政府は、これまで三次にわたる沖縄振興開発計画を策定し、これに基づき平成十二年度予算も含めると総額で約七兆円の国費を投入するなど、沖縄の振興開発のための諸施策を積極的に推進してまいりました。そしてそれらの諸施策と県民の方々の不断の努力とが相まって、本土との格差も次第に縮小するなど、総体として着実に発展しているところであります。

しかしながら、雇用や所得格差の問題、産業振興の推進、さらには普天間飛行場の移設・返還問題をはじめとする米軍基地問題など、沖縄はなお解決しなければならぬ多くの課題を抱えており、沖縄問題の解決は、いわば未だ道半ばであります。森内閣としては、「日本新生」を目指しておりますが、これは沖縄においてはとりわけ「沖縄新生」を意味するものであります。間近に二十一世紀を

就任ご挨拶

内閣官房長官・沖縄開発庁長官

なか がわ ひで なお
中 川 秀 直

臨むというこの節目の時期にあつて、沖縄の明るい未来の開拓に貢献すべく、県や市町村との連携、協力のもとこれらの課題解決に全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。また、沖縄におけるサミット首脳会合の開催は、二十一世紀における沖縄の飛躍に向けた大きな二歩になるものと確信しており、県民の皆様のご理解と県及び地元自治体の引き続きの御協力を得て、最後まで気をゆるめずに臨む所存であります。

沖縄開発庁としては、今後とも第三次沖縄振興開発計画を着実に推進するとともに、引き続き本土との格差を是正し、自立的発展のための基礎条件が逐次整備されるよう努力してまいります。特に、沖縄の豊かな自然環境と独特の歴史や伝統文化など観光資源を有機的に関連させ、観光、リゾート産業の充実発展を図ること、豊かで優秀な人材を生かし、各種振興地域制度等の諸制度を最大限活用し、情報通信産業等特色ある産業の振興を図ること、我が国とアジア・太平洋諸国との交流の拠点となるべく、地理的特性を生かした南の交流拠点の形成を図ることなどを振興開発施策の柱と位置付け、沖縄の特性を生かした施策の展開を図っていくべきだと考えております。

ところで、来年一月の中央省庁再編にあたっては、現行の沖縄開発庁と内閣官房の一部を統合し、

内閣府に沖縄対策の担当大臣を置き、沖縄対策部局を設置することとしております。また、現地の沖縄では、沖縄総合事務局をそのまま置き、現行の機能を継続することとしております。したがって、中央省庁再編後の沖縄対策の推進体制は更に充実するものと考えております。とりわけ、沖縄総合事務局は、沖縄における国の総合出先機関として、県民の身近な機関として振興開発の業務を総合的、一体的に遂行するものであり、沖縄県民の期待も極めて大きなものがあります。職員もこのような総合事務局の任務を十分認識し、県民になお属親しまれるよう努力されることを期待するものであります。

私事ながら、私は代議士を志す前に新聞記者として七年間を過ごしましたが、沖縄返還を控え重要なかつ難しい局面にあつた総理府を担当し、後に沖縄開発庁長官に就任された山中総理府総務長官と沖縄の今後の在り方を真剣に議論させていただいた経験がございます。二十一世紀の扉が開く直前のこの時期に沖縄開発庁長官を拝命したことは少なからぬ因縁を感じているところであります。

私としては、山中初代長官から青木前長官に至る歴代長官の沖縄に対する溢れんばかりの情熱、熱意をしっかりと引き継ぎ、県民の方々と喜びも悲しみも分かちあつて全力を尽くす覚悟であることとを申し上げて、御挨拶いたします。





内閣官房長官・沖縄開発庁長官に
中川^{なかがわ}秀直^{ひでなお}氏が就任

平成十二年七月四日付けで内閣官房長官・沖縄開発庁長官に中川秀直氏が就任された。

昭和五十一年衆議院議員選挙で初当選。昭和五十八年国土政務次官、昭和六十一年通商産業政務次官、平成六年村山内閣総理大臣補佐、平成八年科学技術庁長官、同年自由民主党総務会長代理、平成十年自由民主党広島県支部連合会会長、同年衆議院議院運営委員長、平成十二年自由民主党幹事長代理等を歴任。

東京都出身 五十六歳



沖縄開発総括政務次官に
白保^{しらほ}台^{たい}一^{いち}氏が再任

平成十二年七月四日付けで沖縄開発総括政務次官に白保台氏が再任された。

沖縄県議会議員二期当選。平成八年衆議院議員選挙で初当選。同年衆議院沖縄・北方対策特別委員会理事、衆議院地方行政委員会委員、衆議院石炭特別委員会委員、国土審議会特別委員、平成十年公明党国会対策副委員長、平成十一年十月から沖縄開発総括政務次官を歴任。

沖縄県出身 五十七歳

命短し、恋せよ乙女



映画監督 中江裕司

人にせよ、物にせよ、自然にせよ、恋しているから生きていけるのだ。恋こそが生きている証だ。

「ナビイの恋」は上映キャラバンという形で各地の公民館などを上映してまわっている。系満市で上映したとき、上映が終わって、一人の婦人が私を監督と知って近づいてこられた。六十代ぐらいの方だろうか。「実は私にもあったのよ。ずっと

実は映画監督としての仕事は映画が完成した時に終わっていて、その後は上映スタッフとして映画に関わることとなる。八重山、宮古地区での上映キャラバンでは私は映写技師として各島を回った。映写機材約百七十キロを抱えて各島を回る。女性スタッフ二人と私の三人での各島への連絡船への荷物の移動は大変だった。しかし、それに勝る刺激や楽しさが離島キャラバンにはある。

島々であつたと言っているほど反応が違うし、その生な手ごたえというのは那覇に居ては絶対感じられないことだ。私は島々からたくさんものを貰い、そこで貰ったものを映画という形にしてきた。今後そのつきあいは永遠に続いていくことだと思つた。

沖縄は今、いろんなことで注目されている土地だと思う。今まで基地、戦争という視点でしか語られなかった沖縄は自分たちのことを前向きに売り込むチャンスだと思つた。自分たちは辛かった。こんなにも被害者だ。そんなことを言っている場合ではないと思つた。前向きに自分たちのすばらしい所をアピールしなければならぬ。今はその時だ。

私は沖縄は豊かだと思つた。その豊かさを世界に言わなくてはなら

ぬ。私はその考えを離島キャラバンを経て強くした。物質的な豊かさではなく、風景や風土、そして本物の芸能がある。そして、その土壌に育てられた個性的な人々がいる。沖縄はこの豊かさに支えられていると思つた。本土からも、これらを求める移住者も多い。しかし、私たち沖縄県民自身がこの豊かさに気づいていない。

私はこの夏、サミットのオープニングフェスティバルの演出をすることなつていて。サミットでは沖縄県民はガマンすることも多いと思つた。おばあたちは、海の向こうの遠いところから、たくさんの方が来る事を嬉しく思い、歓迎したいと思つた。しかし、実際にサミットと言つた祭りに参加できるのは限られた人たちだ。だから私は一人でも多くの県民が参加出来る場を作れればと思つた。うまんちゅ力チャーシー大会と名付けたこの祭りは、出演者と観客の区別がない誰もが参加できる祭りだ。一人でも多くの人が平和を願い力チャーシーを舞ってくれることが世界に沖縄の豊かさを見せる事が出来ることになると思つた。七月二十一日、夜、名護の二十一世紀の森で皆さんをお待ちしています。いっしょに舞いましょう。

命短し、恋せよ乙女。私の作った映画「ナビイの恋」では、たまたま乙女は七十九歳だったが、年齢と恋は関係ない。本土の取材の人がよくお年寄りの恋愛映画を考へてくれましたねと言われるのが不思議でならない。つまり本土ではお年寄りは恋愛をしない、恋愛して欲しくない、というのが大前提らしい。それはおかしい話だ。恋心なんて誰にも止められない。恋愛に引退はないし、いつまでも現役でいられるのが恋愛のいいところだ。

初恋の人が忘れられなくて、先日会いに行つたのよ。「その後は涙で声がつもつて話されませんでした。私もどうしていいかわからず、そのままになつてしまいました。自分が作つた映画がフィクションを越えて、現実の世界と繋がっていくことに驚きを憶えました。その後また一人の婦人の方が来られて私に向かつてこう言われた。「私にも実はあったのよ。この間その彼が会いに来よつたのよ。」と、楽しそうに話された。何か救われる感じがした。

私ども沖縄県民が尊敬してやまなかつた牧隆壽前沖縄開発事務次官が、去る三月三日、お亡くなりになられました。ご逝去を心から悼みますとともに、その失うところが大きいことを思い、私どもは今なお深い悲しみを感じております。

牧前次官は、復帰前に税制調査団の一員として沖縄に來られたことが本県との最初の関わりであつたと思います。爾來、沖縄に三たび赴任され、また沖縄開発事務次官就任をはじめ沖縄開発庁勤務を合わせる、実に六度十年有余にわたり沖縄のご担当をなさいました。ご出身が屋久島であつたこともあつてか常に沖縄の立場に立つてそして離島も含め県内全体に常に目配りいただきながら沖縄の振興にご尽力いただきました。そのお仕事ぶりや情熱にはいつも深く感銘を受けたものです。例えば三重県の津市の助役をなさつておられた時など、役人らしから

牧 前次官を偲ぶ

沖縄県副知事 石川 秀雄

ぬ行動力と実行力を存分に發揮され多くのご功績を残されたと承つておりますが、沖縄の振興に對しましてその素晴らしいお力を發揮していただきましたことは、私どもにとつて本當にありがたいことでありました。

お世話になつたことや思い出されることは数多くありますが、例えば昭和四十九年に沖縄総合事務局総務部調査企画課課長補佐にご就任された際、市町村の行財政運営に關し親身のご指導をいただいたことが思い出されます。当時は海洋博が開催された前後の社会経済情勢が転変としていた時期でしたが、ちょうどその頃、私も県において市町村行政を担当して

おりましたので、本當に多くのご指導を賜りました。また一緒に西表島に行く機会などもありましたので、大変親しくおつき合ひさせていただきました。

その後昭和六十二年に沖縄総合事務局次長、平成四年には沖縄総合事務局長にご就任されましたが、精力的に離島を回られ、地域住民と

對話をされていたお姿が今も思い出されます。また沖縄開発庁総務局企画課長、振興局長、事務次官を歴任されましたが、その間、第三次沖縄振興開発計画の策定とその推進、特別自由貿易地域制度の導入、国立組踊劇場の建設推進など、そのご功績には誠に顕著なものがあります。またご退官なされた後も、県内の新大学設置構想に關わられるなど、常に情熱とまごころを以て沖縄の発展にご貢献下さいました。

時には泡盛をたしなみ沖縄民謡も歌われ、人倍沖縄を思われたお優しいお人柄は、政界、経済界、官界の各界をはじめ多くの県民から敬愛され、信頼を寄せられていました。お若い頃走り高跳びやバレーボールで鍛えられた精悍なお姿を思い出すにつけ、お亡くなりになつたことが未だに信じられない気がいたします。

今、本県はサミット開催など、世界に向けて大きくはばたくチャンスを与えられております。また第三次振興開発計画終了後の新たな沖縄振興計画の県案策定等に取り組む極めて大事な時期を迎えております。これから多くの指導をいただきたい矢先にご逝去されましたことは、誠に残念で

なりませんが私どもとしましては、生前のご恩に報いるためにも、「牧さんがご存命ならどうお考えになられるだろうか」ということを常に考えながら、二十一世紀に向けて、夢と希望の持てる、あたたかさと思いやりにあふれた沖縄を作るべく全力を尽くしてまいりたいと思ひます。

これまでお世話になりましたことに重ねて感謝申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り致します。牧さんどうか安らかに、そして沖縄県の発展に永遠のご加護を賜りますようお願い致します。



牧 前次官(左)と歓談する石川副知事

Special
特集
Edition

九州・沖縄サミット

**九州・沖縄サミットに向けて
取り組んだ事業等**



KYUSHU-OKINAWA
SUMMIT 2000

二十世紀最後のサミット「九州・沖縄サミット」の首脳会議が、七月二十一日から二十三日にかけて名護市の「万国津梁館」を舞台に開催されます。

昨年四月二十九日の「九州・沖縄サミット」の開催地決定を受けて、沖縄総合事務局においては首脳会議の受け入れ体制の整備等を図るために、「沖縄総合事務局二〇〇〇年サミット対策本部」を平成十一年五月十一日に設置し、関係する機関等と密接な連携を取りつつ、国道五八号等主要道路の整備、社交夕食会々場となる首里城公園地区の整備、プレスセンター施設の整備等様々な事業に積極的に取り組んできました。今回は沖縄総合事務局が九州・沖縄サミットに向けて取り組んだ事業等について、紹介します。



プレスセンター棟(全景)

第二期埋立に合わせて平成十年から工事着手し事業を進めてきましたが九州・沖縄サミット開催時の一般国道五八号の交通緩和を図るため整備を急ぎ、今年三月に宜野湾バイパス全線が供用されました。

② サミット会場入口の整備

一般国道五八号の名護市喜瀬地内に位置するサミット会場入口部のフセナ岬交差点付近は見通しの悪い区間であつたことから、交差点の線形改良(〇・四キロメートル)や連続照明の設置(一・一・四キロメートル)、植栽等を整備すると共に電線類の地中化を実施し、交通安全の確保と南国らしい景観の創出を図りました。



サミット会場入口交差点

③ 那覇空港入口の鏡水交差点の改良

那覇市鏡水地内に位置する一般国道三三二号と県道那覇空港線との交差点部において交差点形状の改良を行い、沖縄の空の玄関である空港ターミナルビル方面とのアクセスの改善を行いました。

④ 交通安全施設の整備

道路照明灯、防護柵、視線誘導標、区画線の設置など交通安全に欠かせない道路付属施設の整備を一般国道五八号の他三三二号等において行いました。

⑤ 情報提供施設の充実

一般国道五八号や三三二号等において主要施設への案内標識及び道路情報板を整備すると共に、一般国道五八号の名護市源河以北に電波レーゾン等VICS情報に関する施設等を整備し、道路利用者への道路情報提供施設の充実を図りました。

⑥ 景観の創出

一般国道五八号、三三二号において、ホウオウボクやヤシ類などを用いて沖縄らしい道路植栽を充実させ、「花と緑あふれる美ら島沖縄」を印象づける景観の創出を図りました。



一、道路の整備

鉄軌道系交通のない沖縄では、サミット時における移動手段として道路が極めて重要な役割を担うことから、一年九州・沖縄サミット開催に向け、沖縄総合事務局・沖縄県・日本道路公団九州支社において「二年サミット道路連絡協議会」を設置し、道路管理者間相互の協力体制を確立し、次の整備方針で道路整備を行いました。

【円滑に移動できるルートの確保】

一般国道五 六号 南風原道路の一部供用

県道那覇空港線の四車線供用
沖縄自動車道 屋嘉ICの緊急開口部(仮設ランプ)の整備 他

【安全かつ信頼出来る道路空間の確保】

サミット会場入口部の交差点改良
排水性舗装の整備
舗装補修、照明灯、防護柵等の整備
ETC道路上に設置するテレビカメラの設置 他

【適切かつ迅速な道路情報の提供】

案内標識等の整備
高度道路交通システム(ITS)の導入
VICS(道路交通情報通信システム)の整備
ETC(ノンストップ自動料金収受システム)の導入 他



宜野湾バイパス

【植栽などによる沖縄らしい道路景観の創出】

サミット会場入口部におけるヤシ類、ホウオウボクなどによる植栽
沖縄自動車道IC、SA、PA等の修景 他

(一) 国道五八号等の整備

開発建設部がサミットに向けて取り組んで完成させた一般国道五八号等の直轄国道の道路の整備事業には、次のようなものがあります。

① 宜野湾バイパスの全線供用

宜野湾バイパスは一般国道五八号のうち、交通混雑が著しい伊佐大謝名交差点などの交通緩和を目的に、宜野湾市伊佐から浦添市牧港に至る四五キロメートルのバイパスとして計画されました。真志喜から牧港間は宜野湾港



諸 元

道路規格	第1種 第3級
区 間	自：南風原町字山川 至：西原町字池田
供用延長	5.1km(事業延長5.9km)
設計速度	V=80km/h
車 線 数	4車線



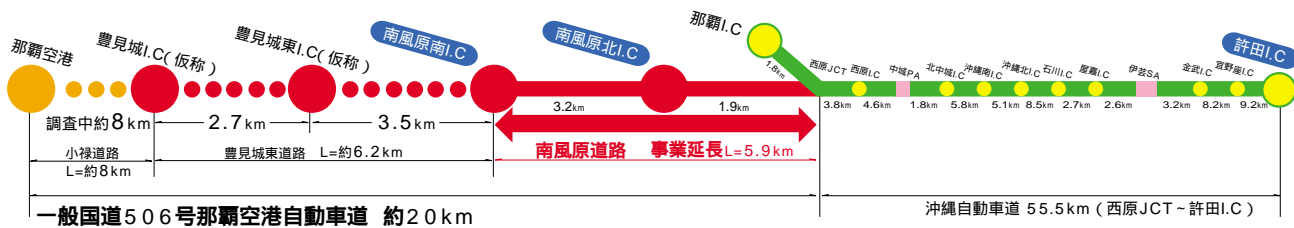
開通式(あいさつを述べられる中山建設大臣)

通行料金

軽・普通車・中型車	100円
大型車	150円
特大車	300円

参考 / 普通自動車等の例

沖縄自動車道と南風原道路を連続して利用した場合の料金は、次のとおりです。
 許田IC～南風原北IC又は南風原南IC間: 1,050円
 (許田IC～那覇IC間: 1,000円)



那覇空港自動車道南風原道路



(二) 那覇空港自動車道
 南風原道路全線開通

① 那覇空港自動車道

那覇空港自動車道は、沖縄自動車道延長五十七キロメートル・全線供用中)と那覇空港を結ぶ延長約二十キロメートルの高規格幹線道路であり、沖縄自動車道と一体となつて沖縄本島を南北に縦貫する基幹的交通軸を形成し、本島北部、中部、南部及び那覇空港間の定時性・高速度性を確保するとともに都市部の交通混雑緩和に役立つことが期待されています。

② 南風原道路とは

南風原道路は、那覇空港自動車道のうち南風原町山川(南風原南インターチェンジ)から西原町池田(西原ジャンクション)までの五・一キロメートル区間です。昭和六十三年度に事業化し、平成二年度に都市計画決定及び用地買収に着手し、四年度より工事に着手し、事業を進めてきましたが、本年七月の九州・沖縄サミット開催時において沖縄自動車道の一部を代替する道路として整備を急ぎ、今回南風原道路全線が供用されました。なお、今回の開通が那覇空港自動車道としての最初の開通となります。

南風原道路から那覇IC、又はその逆方向の利用はできませんのでご注意ください。

③ 南風原道路供用による効果

今回の南風原道路の供用により左記の効果が予想されます。
 周辺道路の混雑緩和
 沖縄自動車道を利用する那覇都市圏への出入交通は、これまで那覇インターチェンジに集中していたため、主要地方道那覇系満線(環状二号)など都市内道路の混雑の要因の一つとなっていました。
 南風原道路の開通で南風原北インターチェンジ、南風原南インターチェンジを利用することにより、出入交

④ 開通式

本島南部から北部への移動時間の短縮
 これまで南部地域から高速道路を利用する場合は、那覇インターまで北上する必要がありました。南風原北インターチェンジ及び南風原南インターチェンジの供用により、高速道路へのアクセス性が向上し、南部地域と北部地域間の移動時間が大幅に短縮されます。
 沖縄総合事務局と日本道路公団九州支社の合同主催による「南風原道路」開通式と「サミット関連事業」の完成式が六月二十八日午後二時から南風原道路の特設会場において、中山正暉建設大臣や白保台一(沖縄開発総括政務次官、稲嶺恵(沖縄県知事、県選出の国会議員、国・県地元関係者ら約四百人の出席の下、開催されました。
 中山建設大臣は挨拶の中で、「南風原道路の開通は、来る沖縄サミットの成功に大きく貢献することはもとより、沖縄の振興開発に大きく寄与するものと確信する。」と述べられるなど、その効果について、大いに期待されていました。
 テープカットやくす玉開披のあと、通り初めて開通を祝い、午後五時から一般に供用されました。

二、首里城北殿が 首脳夫妻社交 夕食会々場に決定



首里城全景



北殿

今回のサミットの行事として、首里城において首脳夫妻社交夕食会が七月二十一日に開催されます。夕食会の会場は城内の北殿に決まっていますが、琉球王朝時代を通じて、北殿は中国から訪れた冊封使を接待する場として使われていました。また、一五〇年前にはアメリカからペリー提督が琉球に訪れたのですが、この時にもペリー提督が北殿で接待されたという記録があります。このように、建物に有する歴史的事実からしても、北殿が夕食会々場に選ばれたのは必然性のあることではありますが、同時に西暦二〇〇〇年の節目のサミットの夕食会々場として首里城が使われることに、不思議な縁のようなものを感じずにはいられません。

各国の首脳夫妻には、琉球情緒豊かな食事を心ゆくまで楽しんでいただきたいものです。そして、六百年以上にわたる首里城の歴史に、この夕食会は新たな一ページとしてつけ加わることでしょう。

首里城公園は平成四年に一部開園してからも順次整備を進めてきており、今では首里城の主な建物は完成して、往事の首里城の雄姿が概成しつつあります。そんな中で、ごく最近完成した施設には供屋(ともや)があります。ここは当時の使われ方はよく分かってはいませんが、現在は万国津梁の鐘の複製品をかけています。今年三月には、小淵前総理の手によって鐘の撞き初めが行われたそうです。



系図座・用物座



日影台

また、ほかにも、系図座・用物座や二階殿、それに日影台などの施設が完成しました。かつては系図座・用物座は身分の高い人の系図を管理するなどした役所のオフィスであり、二階殿は国王の居室でした。今は、系図座・用物座は公園利用者のための休憩所として毎日多くの方々に利用されています。二階殿は国営沖縄記念公園事務所首里出張所として活用しています。また、日影台はその名の通りの日時計で、今でもかなり正確な時刻を示しています。

このように年々施設の拡充をはかっていますが、特に昨今のバリアフリーの要望に対応するために、那覇市街地を臨める西(いり)のアザナには身障者や高齢者でも上れるように緩やかなスロープを設けたところです。

三、沖縄総合事務局 研修所の利活用



沖縄総合事務局研修所

沖縄総合事務局研修所は、サミット主会場の「万国津梁館」に近接していることから、サミット開催前後の七月十九日から二十五日まで救急医療対策本部が設置され、利活用されることとなっています。

サミット救急医療対策本部は、サミット期間中の方が一の事象に機敏に対応するためのもので、厚生省、警察庁及び消防庁の三省庁合同による救急医療面での重要な拠点となります。

四、プレスセンター等が完成

概要

七月二十日から二十三日に開催される九州・沖縄サミットに際し、名護市二十世紀の森の周辺施設を活用した国際メディアセンターは、議長記者会見、各国記者会見が行われるとともに、国内外のマスメディア関係者が集まり、九州・沖縄サミットの成果を全世界に向けて発信する場となるものです。

設計に当たっては、記者会見等の取材、記事の作成、情報発信、意見交換等の活動を快適かつ円滑に行えるよう配慮すると共に、地域性・伝統文化の継承と、オリジナルで斬新なデザイン構成とし、主要国首脳の記者会見場にふさわしい表情としました。

具体的には、日本らしさ、沖縄らしさの象徴として、温か味・親しみのある、木といった素材を積極的に導入し、同時に外壁構成に用いることにより、羽目板越しの視覚的透過性を与えることでそれらを表現しています。

また、仮設建築物として主要な資機材は賃貸借とし、資機材の再利用、環境負荷低減の観点から、省資源・省エネルギー、廃棄物の発生抑制を図っています。

経緯等

平成十一年十月四日に公告、十一月二十九日に設計施工一括発注方式による一般競争入札を実施、直ちに落札者と工事請負契約を行い敷地調査及び設計に着手、平成十二年二月十四日の本格着工以来、約四・五ヶ月と

いう短工期でプレスセンター等施設の設置を屋外整備の一部を除き完成しました。

引き続き、外務省において内部の装飾・備品の搬入が行われ、サミット本番を迎えることとなります。また、サミット終了後、速やかに原状復旧を行う予定としています。

工事概要

一、設置場所
沖縄県名護市港二丁目一番一号（名護市民会館敷地内）

二、主用施設概要

(1) プレスセンター棟

鉄骨造二階建、延べ面積約九千平方メートル
九州・沖縄サミットを取材する、国内外の報道関係者の作業場及びG8各国及びEU用の記者会見場を有する施設。

(2) アメニティーセンター棟
鉄骨造平屋建（一部二階建）、延べ面積約千五百平方メートル
国内外の報道関係者へ食事等のサービスを提供する、カフェテリア形式の食堂等を有する施設。

三、工事費
約二十六億円



プレスセンター棟



アメニティーセンター棟（内部）

五、名護市庁舎ライトアップ

整備事業

沖縄文化の象徴であるシーサーが鎮座し、特徴的な建物として名高い名護市庁舎を、サミット開催期間中、ライトアップすることにより、その魅力を国内外に広く紹介します。

そのための施設整備を名護市が国庫補助事業「運輸省 沖縄特別振興対策調整費」として行います。

その事業概要は次のとおりです。

事業の目的

名護市庁舎はサミット開催期間中、報道関係者の取材活動拠点となるフレイクセンターに隣接した位置にあります。同庁舎は、沖縄の伝統文化を体現したシンボリックな建築物であり、名護城址・名護博物館等と並び名護市内の観光名所であることから、サミット報道の際に背景として使われたり、周辺の観光名所として紹介されたりするものと思われれます。

サミット開催期間中は、プレスセンターからサミット関連の情報が世界中に放送されることとなりますが、それは沖縄の観光魅力、ひいては日本の観光魅力を世界に向けて情報発信するまたとない機会でもあります。

そこで、今回、同事業を実施することにより、名護市庁舎のライトアップによる夜の景観創出を行い、日本時間の夜間に行われることも多い各国報道機関の報道を沖縄の観光魅力発信のために最大限、活用しようとするものです。



ライトアップした名護市庁舎

主な照明ポイント

シーサー照明

国道五八号側に向いて鎮座しているシーサーを照明することにより、市のシンボルとしての庁舎を強く印象づけます。

柱照明

建物外面に並ぶ柱群を照明することにより立体的な演出効果を生み出します。

フラッグ照明

サミット関係国のフラッグを照らすことで、二〇〇〇年サミット地方開催地の市としてのシンボリックな庁舎を国内外へアピールします。

以上のライトアップはサミット終了後も、通常期は二三時間程度、また一月の桜祭りやその他の行事期間中は、日没から午前〇時まで点灯し、名護の街の観光資源として効果的な活用を図ることとしています。

そのことにより、北部地域全体の観光周遊ルートの魅力向上につながり、同地域の活性化に資することが期待されています。

現状、先行きとも 全産業で「上昇」超

財務部



県内企業の景況感



～大蔵省景気予測調査結果から～

財務部が平成12年5月に県内の資本金1千万円以上の法人企業(金融・保険を除く)を対象に実施した大蔵省景気予測調査結果の概要を紹介します。

景況判断

現状(十二年度四・六月期)では製造業で「下降」超に転じているものの、ウェイトの高い非製造業で「上昇」超幅が拡大していることから、全産業では「上昇」超幅が拡大している。

先行きについては、十二年度七・九月期は非製造業で「上昇」超幅が拡大するほか、製造業で再び「上昇」超に転じることから、全産業では「上昇」超幅が拡大する見通しとなっている。

十二年度十二月期は非製造業で「上昇」超幅が縮小するものの、製造業で「上昇」超幅が拡大することから、全産業では引き続き「上昇」超で推移する見通しとなっている。

売上高

十二年度上期は製造業、非製造業とも増収とみており、全産業では一七%の増収見込みとなっている。

十二年度下期は製造業、非製造業とも増収とみており、全産業では三九%の増収見通しとなっている。この結果、十二年度通期は全産業では三三%の増収見通しとなっている。

経常損益

十二年度上期は製造業、非製造業とも増益とみていることから、全産業では二・五%の増益見込みとなっている。

十二年度下期は、製造業で増益とみているほか、非製造業で大幅な増益とみていることから、全産業では一八・九%の大幅な増益見通しとなっている。

この結果、十二年度通期は全産業では三三八%の増益見通しとなっている。

従業員数

現状では製造業で「過剰気味」超幅が拡大しているものの、ウェイトの高い非製造業で「不足気味」超幅が拡大していることから、全産業では「不足気味」超幅が拡大している。

先行きについては、製造業で「過剰気味」超幅が拡大し、非製造業で「不足気味」超幅が縮小することから、全産業では「不足気味」超から「過剰気味」超に転じる見通しとなっている。

所定外労働時間

現状では、中小企業で「減少」超となっているものの、大企業、中堅企業では「増加」超幅が拡大している。

先行きについては、大企業、中堅企業とも「増加」超で推移した後、「減少」超に転じる見通しとなっている。中小企業では「減少」超で推移する見通しとなっている。

金融機関の融資態度

現状では大企業で「ゆるやか」超で推移し、中堅企業で「ゆるやか」超幅が拡大しているほか、中小企業では「ゆるやか」超に転じている。

先行きについては、いずれの規模でも「ゆるやか」超で推移する見通しとなっている。

資金繰り

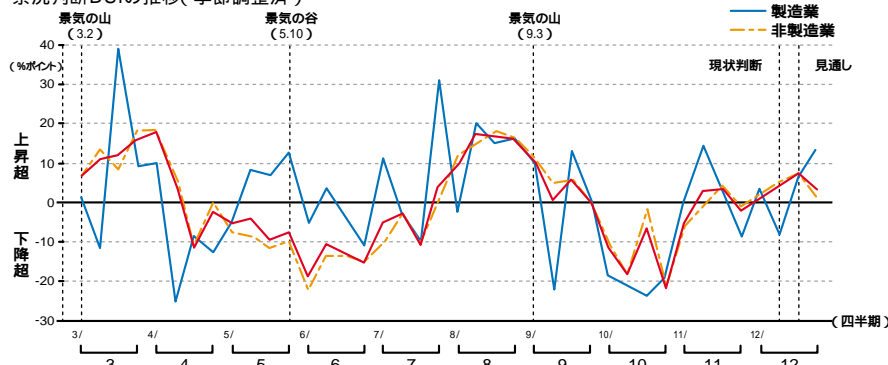
現状では、中小企業で「悪化」超で推移しているものの、大企業、中堅企業では「改善」超で推移している。

先行きについては大企業で「悪化」超に転じ、中小企業では「悪化」超で推移する見通しとなっているものの、中堅企業では「改善」超で推移する見通しとなっている。

中期的な経営課題

中期的な経営課題についてみると、全産業では、国内販売体制、営業力の強化を挙げる企業が最も多く、次いで、企業実態に即した雇用、人事、給与システムの確立、後継者、人材確保育成の順となっている。

景況判断BSIの推移(季節調整済)



*景気の山、景気の谷は全国ベース

BSIとは・・・景気動向指数(ビジネス・サーベイ・インデックス)をいい、見方は次のとおりです。
BSI=(「上昇」等と回答した企業の構成比-「下降」等と回答した企業の構成比)

不正改造車防止



その2

運輸部



運輸部では、沖縄県警察本部及び県内自動車関係十四団体で構成する「沖縄県不正改造防止推進協議会」の協力を得て、六月二日から三十日までの二か月間を重点期間とし、「不正改造車を排除する運動」を展開しました。

この運動は、暴走行為、過積載等を目的とした不正改造車による交通ルールを無視した運行や自動車排出ガスによる大気汚染、騒音等による生活環境の悪化が大きな社会問題となってきたことに伴い、平成二年度から実施しているものです。

運動期間中、自動車「ユザー」や自動車関係事業者等に広く不正改造車についての啓蒙を行うため、ラジオのスポット放送、市町村広報誌等へ広報文の掲載依頼を行うとともに、運動ポスター、不正改造事例ポスターの掲示を行い、自動車「ユザー」等への社会的責務に対する自覚を促しました。

運動初日の六月二日には不正改造車を対象とした街頭検査を沖縄市で実施して二五三台の車両を検査、内五四台が整備不良車両であった。整備不良車両の内、特に違反性の強い車両については、整備命令書」を交付し、基準に適合させるよう命令しました。今回の街頭検査では、暴走行為などを目的とした悪質な不正改造車はもちろんのこと、「窓ガラスへの着色フィルムの貼付」、「クリアレンズなどを装着した不適切な灯火」など、基準に適合せず、事故を誘発しかねない改造にもかかわらず、自動車「ユザー」が不正改造であると認識していない事例についても重点的に関係者の指導を行うとともに、チラシやクリアファイルの配布を行い運動の啓蒙を行いました。

今回の街頭検査での主な不正改造の例としては、

窓ガラスへの着色フィルムの貼り付け
クリアレンズなどを装着した不適切な灯火
タイヤの車体外へのはみ出し
突入防止装置の取り外された車両
マフラーの取り外し・切断
特種用途車（キャンピング車等）の構造要件違反等がありました。

自動車は、その安全性の確保及び公害の防止を図るため、構造・装置及び性能について必要最小限の技術基準（道路運送車両の保安基準）が定められおり、自分勝手な理由で、ルールを破って自動車を不正に改造することは許されません。

不正改造車は事故やトラブルの原因になるばかりか、大気汚染や騒音など、周囲の生活環境を破壊すること也不少くありません。

この機会に皆様も是非、不正改造の防止について理解を深めてください。



街頭検査



前面ガラスにフィルムの貼り付けられた車輛

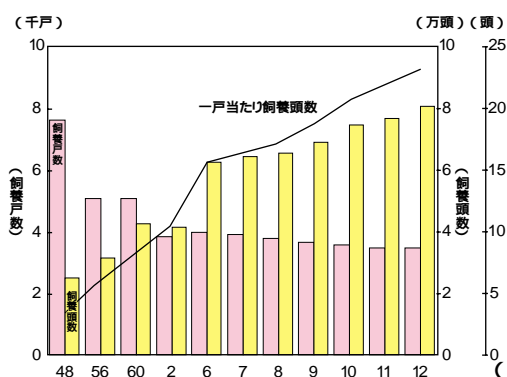
順調に伸びる 沖縄の肉用牛

沖縄の畜産は、本土復帰以来順調な発展を遂げ、沖縄農業の中で重要な地位を占めています。中でも肉用牛は年々順調な伸びをみせ、今後とも沖縄農業を支える重要な部門として発展していくことが期待されています。

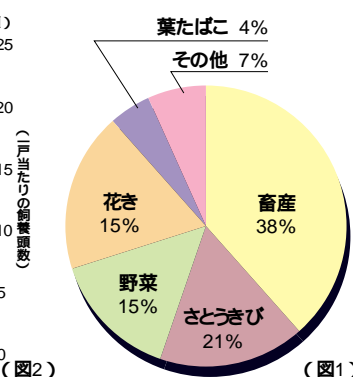
西端に位置する牧場)

びにはめましましものがあり、平成十二年の飼養頭数は第三次沖縄振興開発計画(平成四十三年度)の目標値である八万頭を既に突破しており、今後も大きく伸びるものと期待されています。(図2)

肉用牛の飼養戸数と頭数の推移



農業粗生産額の主な種目別の割合(平成10年)



一、沖縄農業における畜産の位置
平成十年における沖縄の畜産の生産額は三百五十八億円で農業粗生産額全体(九百四十四億円)の三十八%を占めており、沖縄農業の中で重要な地位を占めています。(図1)その中で特に肉用牛の生産の伸び

全国からみた沖縄の肉用牛の位置(平成12年)

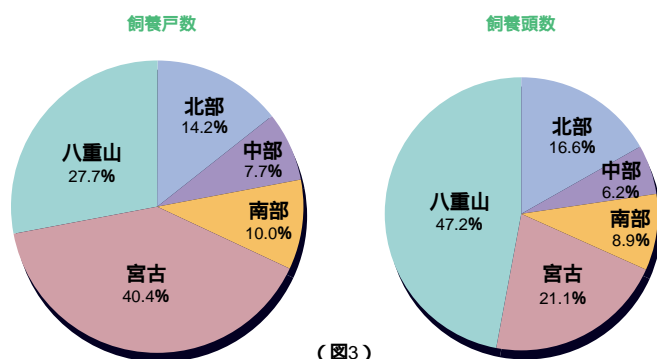
	飼養戸数	飼養頭数	単位:戸頭 (表1)
			子取り用めす牛
全国(A)	116,500	2,823,000	635,500
沖縄(B)	3,470	80,700	46,400
B/A(%)	3.0	2.9	7.3
全国順位	10位	10位	5位

肉用牛の飼養戸数・頭数(沖縄)

	飼養戸数	飼養頭数	単位:戸頭 (表2)
			一戸当たり
昭和48年(A)	7,620	25,200	3.3
平成12年(B)	3,470	80,700	23.3
B/A(%)	45.5	320.2	706.1

二、全国における沖縄の肉用牛の位置
平成十二年の沖縄の肉用牛の飼養頭数は八万七千頭で、全国十位の飼養頭数となっています。そのうち子取り用めす牛については四万六千四百頭で、全国の七三%を占め、全国五位に位置付けられるなど、素牛の重要な生産供給地域となっています。(表1)

肉用牛の地域別飼養戸数及び飼養頭数の割合(平成11年)



三、沖縄における飼養状況
概況
平成十二年の肉用牛の飼養戸数及び頭数を復帰直後の昭和四十八年と比較すると、飼養戸数は小規模飼養階層の脱落等で半減し、三千四百七十戸となったものの、飼養頭数は八万七千頭と三・二倍に増加しており、一戸当たり飼養頭数は七倍と規模拡大が進んでいます。(表2)
地域別の飼養状況
肉用牛の飼養農家戸数は、複合経営による舎飼形態が主体の宮古地域が四十四%と最も多く、次いで八重山地域が三十七%となっており、これらの地域で全体の約七割を占めています。一方、飼養頭数は、放牧形



与那国東崎(我が国の最南端)

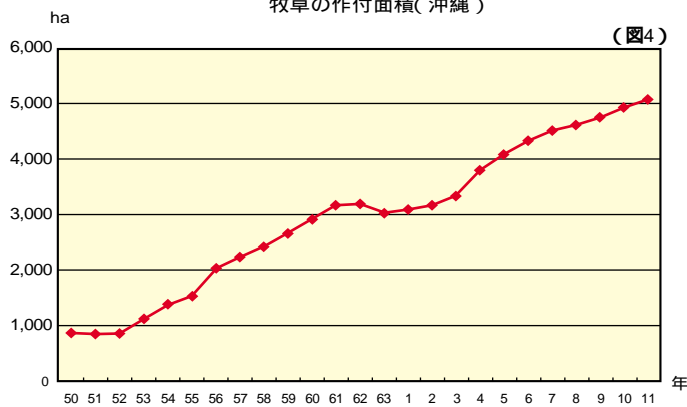
態が主体の八重山地域が四十七・二%と県内飼養頭数のほぼ半数を占めており、次いで宮古地域が二十一・一%、北部地域が十六・六%、南部地域が八・九%、中部地域が六・二%となっています。(図3)

四、発展に向けての努力

飼料基盤の整備

沖縄は亜熱帯という温暖な気候から、牧草の生産性が本土の三倍と高く、肉用牛の生産に有利な条件を有しています。この地域特性を生かして復帰以降、畜産基地建設事業等の公共事業を中心に草地造成が行われたことから、昭和四十八年には九百九十九ヘクタールであった牧草の作付面積は平成十一年には約五千ヘクタールと五倍に拡大しました。(図4)

牧草の作付面積(沖縄)



肉用牛の改良

沖縄の肉用牛は第二次世界大戦で壊滅的な打撃を受け、戦後、外国牛の輸入により牛の増頭を図ってきました。復帰後は、沖縄県が黒毛和種を肉用牛の奨励品種に定め、毎年他県から優良種牛を導入してきたほか、肉用牛の計画交配事業を実施し、品種改良に努めてきました。

貯蔵飼料の普及と定着と飼料生産支援組織の出現

復帰直後までは、牛の飼料給与は青草給与が中心となっていました。



ロールペールラップサイレイジ(白い円柱状のもの)

昭和五十年代から、畜産基地建設事業で乾草やサイレイジ等の貯蔵飼料の生産施設機械が導入されたことから、飼養規模が拡大されてきました。最近ではコントラクター方式飼料生産の外部委託方式により、高齢者や女性でも多頭飼育がやりやすくなっています。

価格の安定

価格が不安定だと、高値のときは増頭し、暴落すると飼養を中止(又は規模縮小)することの繰り返しで

した。現在は、子牛取引価格が保証基準価格以下に低落した場合には補てんするという価格安定制度の実施により、農家は安心して肉用牛の生産に励むことができます。

オウシマダニの撲滅

八重山地域ではこれまで、ババシア病という牛の病気を媒介するオウシマダニが生息していたため、同地域からの牛の移動が制限されてきました。そのため、昭和四十六年から国の補助も受け、関係者が一丸となって駆除に取り組んだ結果、平成十年にタニの撲滅がなされました。撲滅により、移動制限が解除され、八重山地域の農家の肉用子牛の生産意欲が高まっています。



沖縄の肉用牛の増頭要因はいろいろありますが、何よりも農家の飼養管理技術、飼料生産技術、経営管理技術の向上があったからです。県・市町村・関係団体等が農家と一体となつて、たゆまぬ努力を積み重ねてきた結果がこのような肉用牛の飛躍的な発展につながったものであると確信しており、今後ともこのような取り組みを期待するものです。

「地球環境サミットin沖縄」



その4

通商産業部



はじめに

廃棄物を出さない循環型社会の実現に向けた課題を考える、地球環境サミットin沖縄」が去る六月十三日に恩納村内のホテルで開催されました。本イベントは通商産業省が日本商工会議所や国際連合大学高等研究所との共催により、七月に開催される九州・

沖縄サミットを記念する特別企画として開催したものです。

開催の目的は、大量生産・大量消費・大量廃棄といったこれまでの社会スタイルが、私達の生活する地球にどれほど大きな負荷を加え、環境問題を引き起こしてきたのかについて検討し、解決すべき優先課題は何なのか、行政や企業、市民はそれぞれの立場でどのような活動を行うべきなのかについて考えていくというもので、各分野の専門家による講演や討論を通して、沖縄を舞台に最新の動向や情報を提供するものです。

当日は、本島北部での開催にも関わらず、約二百人の聴講者が会場に訪れ、環境問題に対する関心の高さを伺わせました。中島一郎通商産業省環境立地局長の主催者挨拶の後、基調講演と特別講演が行われ、引き続き地元からの有識者も参加したパネリスカッションが行われました。

基調講演

基調講演は、山本良二氏（東京大学生産技術研究所長）が、「脱物質経済実現のための技術革新とビジネス革新」と題して、私達人類が直面している地球環境問題として、約六十億人の人口が将来九十〜百億人に増加すること

が見込まれており、人々が等しく豊かな暮らしをするために「人類は何かできるのか、何をすべきなのか」を技術革新の観点から、経済活動を地球の自浄能力の限界を超えない範囲に抑え、また、産業構造の再構築を検討すべきだと提起しました。

特別講演

特別講演ではタルシオ G・デラセント氏（国際連合大学高等研



研究所長)が「ゼロ・エミッションと持続可能なライフスタイル」と題して、単に産業界の生産プロセスに用いられていたゼロ・エミッションの理念を公共部門サービスや市民のライフスタイルの向上の戦略に用いることが必要だ述べました。また、黒田博史氏(本田技研工業(株)取締役)が「資源循環型社会に向けた企業の取り組みについて」と題して、自社内の取組事例を発表しました。

パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、「地球におけるゼロ・エミッションの推進に向けての課題と対応」をテーマに、コーディネーターの鵜浦真紗子氏(国際連合大学高等研究所プロジェクトマネージャー)、パネラーの山本良二氏、タルシシオ G・デラセнта氏、嘉数啓氏(沖縄振興開発金融公庫副理事長)、駒谷進氏(キリンビール(株)社会環境部長)、新城博氏(株)トリム代表取締役)により活発な討論がなされました。

沖縄においてガラス瓶を軽量骨材に再生する事業を行っている新城氏は、リサイクル商品に対する行政や市場の閉鎖性に苦勞した御自分の経験を踏まえ、ゼロ・エミッション推進の観点からも行

政での積極的な再生資源の利用を提言しました。

駒谷氏は、ゼロ・エミッションの必要性は認めつつも、例えば、乾電池や蛍光灯を九州の工場から北海道まで運んで処理する等、費用対効果の観点から社内での問題提起があることを紹介しました。

嘉数氏は、県内の開発事例としてサトウキビのバガスを原材料とした紙や分解可能な樹脂商品を挙げ、一方でそのコスト高が市場で流通を阻害する要因となっていると提言しました。

山本氏は、環境に対する哲学をきちんと持つことが重要であり、循環型社会を実現するためには、



を維持するための取組、消費者の努力等が提言され、パネラーからも早急な取組、環境面からみた税制度の創設や再生品の公共調達の必要性等が提言されました。

終わりに

鵜浦氏は、ゼロ・エミッションを地域で進めるには、天然資源の効率化、生産性をいかに高めるかが重要であり、また、企業の個別の取組の他に沖縄全体が元気になるための街づくりや地域づくりの中での取組が必要であること、その「プレイヤー」は複数の企業や地域の自治体、私達複数の生活者であることが重要で、更に、企業は、多くの環境問題を派生していることからその解決のためにリーダーシップを発揮しなければならず、製造工程の再構築や再生可能な原材料の優先的な活用を未来のトレンドとして認識できる企業が、二十一世紀のリーディングカンパニーとなると述べました。そして、全員が地球の環境と資源を共有しているとの認識を持つことが必要で、地球市民として沖縄から何が発信できるのか、沖縄のチャンプル文化を拡大し、環境中心のチャンプル文化を沖縄から発信して欲しいとまとめました。

フロアとの意見交換

フロアからは、循環型社会の実現を支援するための意見が相継ぎ、強制的な制度の創設、長寿県



強制的な環境対策制度を創らなければならぬと提言しました。

黒田氏は、人口の集中した中南部の環境改善のために、未来を先取りした交通システムをモデル事業として実施するなど思い切ったトライをすることが必要と提言しました。

財務部

県内初の監査法人認可される

県内初の監査法人として「くもじ監査法人(代表社員・翁長良禎、田港博和)」が、5月17日付けで大蔵大臣から設立認可がなされ、5月22日に江口財務部長から認可書の交付が行われました。

監査法人は、公認会計士法における特別法人であり、公認会計士という個人に与えられた資格に基づく監査証明業務をその法人自体の業務として行う協同組織体です。

同制度は、昭和39年に発生した大規模な企業倒産を背景として、公認会計士監査の充実が要請され、企業の経営規模の拡大及び経営の多角化に対応する組織的な監査を推進するため、41年6月の公認会計士法の一部改正により制定されました。

今回の監査法人の設立は県内では初めてであり、九州・沖縄で4番目、全国で145番目の設立となります。組織的に会計監査を行うことにより、監査の質を高めるほか、監査の審査面での向上、監査を通じ若い公認会計士等の人材の育成を図るなど、県内の経済発展のために側面から寄与できるものと期待されています。

地域会名 監査法人数(平成12年3月末現在)

沖縄	0
南九州	2
北九州	1
四国	1
中国	2
兵庫	4
近畿	24
京滋	1
北陸	2
東海	12
東京	91
東北	2
北海道	2

総務部

第6回沖縄振興開発審議会総合部会専門委員会の開催



去る6月9日、那覇市内のホテルにおいて、第6回沖縄振興開発審議会総合部会専門委員会が開催されました。

同専門委員会(清成忠男法政大学総長を座長に県内外の有識者17名で構成)は、沖縄振興開発審議会総合部会の下に設置され、平成9年3月に沖縄振興開発審議会できりまとめられた「第3次沖縄振興開発計画後期展望」を踏まえ、これまで沖縄振興開発計画に基づき実施された諸施策等の現状と課題について調査審議を行っています。

昨年10月の第1回専門委員会以降これまで6回の専門委員会が開催され、人口、雇用、所得、経済構造、産業振興、人材育成、生活環境等の現状と課題について調査審議が行われています。

今回開催されました第6回専門委員会においては、産業振興についての調査審議と同委員会の調査審議の中間報告のとりまとめについてのフリーディスカッション等が行われました。

今後の予定としましては、9月に開催予定の第7回専門委員会で中間報告案の調査審議を行い、第8回専門委員会で中間報告をとりまとめ、総合部会に報告するとともに、同中間報告を踏まえ、今後の沖縄振興開発の在り方等について、更に掘り下げていくこととしています。

通商産業部

「21世紀経済産業政策の課題と展望」 ～競争力ある多参画社会の形成に向けて～講演会

通商産業部では、去る5月26日に那覇商工会議所と共催で上記講演会を那覇商工会議所ホールで開催しました。講演に当たり、川俣洋史通商産業省大臣官房総務課企画室企画主任補佐を講師として招きました。

「21世紀経済産業政策の課題と展望」は、通商産業大臣の諮問機関である産業構造審議会が今年3月に答申したものです。通商産業省では、これまで10年ごとに通産政策ビジョンを公表してきましたが、省庁再編や新世紀の節目、25年後に少子高齢化がピークを迎えるということもあり、今後四半世紀を念頭に置いたビジョンとして作成したものです。

川俣氏は、ビジョン作成の背景として、市場の世界的な一体化の進展や環境問題、エネルギー問題等の地球規模での諸課題の顕在化、世界に先駆ける我が国人口の高齢化、情報技術やバイオ技術等の大幅な革新による経済社会の変容といった時代環境の変化があり、今後は、これらの変化が生む諸課題に適切に対応することが必要であると説明しました。

また、将来発展する産業群として、ハードとソフトが統合された第三の商品群と呼ばれる情報家電等のサードウェア産業、技術革新に伴い海洋や宇宙等で活躍するフロンティア産業、介護や家事代行サービス等の高齢者のニーズに応える高齢社会産業、リサイクルや環境保全等を行う環境産業、ゲーム等のコンテンツやファッションの感性産業等が台頭してくるとしています。

一方で、従来のシステムである高成長を前提とした経済依存システムやエネルギー等の大量消費、各組織が内部に情報や人材、各種資源を抱え込みリスク対応を独自に行っていた自己完結型システムでは、今後の不透明で不確実な時代や経済のフロントランナー化によるモデルなき時代への対応が不十分であり、種々の機会や情報等のオープン化、リスクやコストの分担・最小化等を図っていくことが必要であり、そのために高年者の知識・経験等を活用するための社会参画機会の創出、環境調和型社会への移行、NPO等のボランタリー組織の役割の増大へといった新しい「日本システム」の形成が求められているとしています。

そのため、今後の経済産業政策の基本的方向としては、経済システムの競争力の強化、多参画社会の形成といった二つの基本座標軸を基に、新たな経済の好循環を形成していくことが必要だとしております。終了後会場からは、外国人労働者の取扱や産業人材育成に関する質問もありました。



農林水産部

「食料・農業・農村基本計画」に関する 意見交換会の開催



去る6月1日及び2日の両日にわたり、「食料・農業・農村基本計画」に関する沖縄県内での意見交換会が開催されました。基本計画は「食料・農業・農村基本法」(いわゆる新基本法)に基づき本年3月に策定されたもので、21世紀における食料、農業及び農村に関する施策の基本的な指針となるものです。

意見交換会は、基本計画に係る今後の国及び地方公共団体の取組方針、具体的施策の展開方向等について、意欲ある農業者等への浸透を図るとともに、農業生産の現場の意見を聴取し、今後の農政の推進に反映することを目的に開催されたものです。

農林水産省からは中澤地方課長、辻企画官が出席して、初日は本島南部の農業者や農業者団体等を対象に、また、2日目は本島の各市町村、消費者及び関係団体等を対象に基本計画の内容説明がありこれを受けて意見交換が行われました。

中澤地方課長からは、「新基本法の理念である国と地方との対等な関係という思想の下、単なる陳情ではなく具体的な提案を聞かせてほしい。」とのあいさつがありました。一方、参加者からは、農作物の輸送コスト低減対策、花きの価格安定基金の早期創設、集落排水対策、南部地下ダムの維持コスト低減対策等、多様な意見が出されるなど活発な議論が交わされました。

開発建設部

羽地ダム湖水橋竣工

治水・利水の両目的を備えた多目的ダムとして名護市の羽地大川に建設中の羽地ダムにおいて、貯水池を横断する湖水橋が完成し、去る4月28日、現地において名護市長を始め地元関係者等出席の下竣工式が盛大に執り行われました。

本橋は、羽地ダム建設により水没する名護市道の付け替え改良工事の一部として平成9年6月に着工された橋長200mのエクストラードPC橋であり、全国でも約10件の施工例しかなく、九州・沖縄では初めての橋梁タイプとなります。

橋名は、本橋建設地の地名を取り入れた「またきな大橋」と命名され、斜材ケーブルには、羽地地域の歴史・文化等の風土資産を活用した風土工学的見地から「名護のさくら」をイメージした色調を採用し、背後の山々と調和したものとなっています。

本橋を含む名護市道が一般供用されると、国道58号から県道18号線に通ずる東西の横断道路として機能することになり、「またきな大橋」が、羽地ダム周辺と一体となった新しい観光地のシンボルとなることが多いに期待されます。



日本港湾協会技術賞、企画賞を受賞

日本港湾協会第72回通常総会が5月24日那覇市民会館において、国会議員、運輸省港湾局長を始め総勢1,000余名の出席の下開催されました。

総会では、港湾行政一般報告、議案審議、港湾功労者等表彰式が行われ、当局関係では、開発建設部が技術賞、那覇港湾空港工事事務所及び大阪航空局那覇空港工事事務所が企画賞をそれぞれ受賞しました。技術賞については、亜熱帯圏におけるサンゴ礁と港湾との共生を図るため、10年余にわたり管内の港湾区域を対象としたブロック等人工構造物でのサンゴの生育状況に関する実態調査及びサンゴの初期着生を促進させるための表面加工実験等の様々な現地調査の実施結果を基に、サンゴの着生、生育と環境条件との関係を把握し、サンゴ礁の保全、創造、利用の観点から港湾施設の配置計画、施設設計及び施工技術を体系的に取りまとめ、サンゴ礁の保全、創造に関わる世界で初めての技術マニュアル(案)として取りまとめたことが評価されました。

また、企画賞については、新しい那覇空港ターミナルの整備に関して受賞しました。近年の航空需要の増加、本土線と離島線のターミナルが分離していたことによる利便性の低さ等諸問題を解決すべく、新しい那覇空港ターミナルが整備されました。整備に際して、沖縄の玄関口である那覇空港の利用を妨げることなく、狭い地域でのターミナル整備事業を円滑に実施するため様々な工夫をしたほか、限られた敷地内でのフィンガー方式の採用、出発階と到着階に分離したダブルデッキ方式の道路の採用など利用者の利便性を最重視した施設の配置設計がなされました。さらに、沖縄独自の素材である琉球石灰岩、壺屋焼きの採用など沖縄らしい景観の整備にも十分な配慮を行いました。その結果、空港の利便性、安全性が飛躍的に高まり、さらに沖縄らしい景観が整備されたことから、観光立県沖縄の振興及びイメージアップに大きく貢献したことが評価されたものです。

運輸部

「任意ISMコ-ド認証取得制度説明会」を開催

去る5月25日任意ISMコ-ド認証取得制度制定に向けた説明会を開催しました。

ISMコ-ド(船舶の安全航行及び汚染防止のための国際管理コ-ド)は、近年の大型海難事故原因に占める人的要因の比率が高いことから、こうした事故を防止するため、船舶だけでなく陸上部門を含めた安全管理体制を構築し、維持していくことを義務付けたもので、国際航海に従事する旅客船等に強制化されています。

内航海運(国内航路)においても荷主側などから、船舶の安全性の確保及び海洋環境保護の目的のため安全管理体制を確立させることを内航海運事業者により要求しており、同等の認証を取得したいとの強い要望を受け、運輸省においても強制化されていない内航海運船舶について、任意によるISMコ-ド認証付与制度を設けることにしました。

説明会は同制度の制定に先立って、認証取得の概要、安全管理体制の構築及び維持の方法、検査体制等について、管内内航海運事業者を対象に行いました。



開発建設部長に

はしだて よういち
橋立 洋一 氏が就任



池田龍彦前部長の
転任に伴い、平成十二
年七月二日付けで開発
建設部長に橋立洋一氏
が就任した。

昭和四十九年早稲
田大学大学院建設工

学科修了。同年運輸省入省、平成二年第二港湾建設
局塩釜港工事事務所長、平成六年第二港湾建設局
工務一課長、平成八年高知県土木部港湾局長、平成
十年港湾局計画課港湾計画審査官、平成十二年港
湾局海岸・防災課長を歴任後現在に至る。

千葉県出身、五十一歳

(プロフィール)

初めての沖縄勤務です。沖縄の豊かな自然や歴史
文化等を学びながら、皆様と一緒に力を合わせて沖
縄の二層の発展に努力していきたいと思っています。



平成12年度 第9回

応募要領

対象 / 「沖縄県内のみち」

課題例

地域のコミュニティの場として人々がふれあうみち。
植栽や歩道等景観に配慮したみち。
トンネルや橋など風景にマッチしたみち。
歴史、文化を感じさせるみち。
祭り、イベント、行事等が行われているみち。
沖縄をイメージさせるみち、季節を感じさせるみち。



沖縄の道路



応募要領
第9回 写真コンテスト

新しい道、なつかしい道、記憶に残るあの道、この道

Roads in Okinawa The 9th Photo Contest

沖縄の道路 写真コンテスト

応募規定 / 応募作品は、キャビネ版カラープリント又は白黒
プリントで、そのネガフィルム(ポジフィルム可)
を必ず同封して下さい。
応募資格は沖縄県内に在住する人を対象とし
ます。
応募枚数は1人5点迄とします。
1年以内に撮影した未発表の作品とします。
入賞作品とそのネガは返却しません。
入賞作品の著作権は主催者に帰属し、広報用(カ
レンダー等)に活用させていただきます。

応募の方法 / 応募票に題名、撮影場所、撮影年月日、作品の簡
単なコメント、撮影者の氏名、住所、電話番号、職
業等を明記し、作品の裏に貼り付けて下さい。
応募票は自作のものでも結構です。

応募締切 / 平成12年9月29日(金) 消印有効

応募先及び / 〒901-2122 沖縄県浦添市勢理客557番地1
問い合わせ先 (トヨタマイカーセンター4階)

「沖縄の道路」写真コンテスト係
TEL.(098)879-2097

見つめていきたいね。
みんなの夢と
道の未来。

8.10 道の日

道路をまもる月間
8・1 ▶ 8・31

いい道は 心の寄り道 できる道

沖縄地方自治協議会

沖縄総合事務局

ホームページアドレス <http://www.ogb.go.jp>